付託委員会	羽田空港対策特別委員会

受理番号	11第 151 号	受理年月日	平成11年11月17日
件　　名	羽田空港跡地に関する陳情		
提 出 者	[redacted]		

【趣　旨】

羽田空港跡地に防災避難場所や区民の交流の場となるような広場を確保するとともに、旧羽田空港の由来と跡地発生の経過が歴史に残せるような記念碑を建立してください。

【理　由】

かつての羽田空港があった地域には、昭和２０年９月２１日までは羽田鈴木町、羽田穴守町、羽田江戸見町の３町があり、水と緑豊かなこの地域は、子供たちが釣りをしたり、海水浴を楽しんだり、空き地で飛び回ったりしていたところであり、大人たちは漁業や海苔栽培で生活をしていた場所でもありました。わが国全体が敗戦に打ちひしがれていた昭和２０年、この地域も空襲のつめあとが生々しく残っており、着のみ着のままで住む家もないものが多くおりました。

そのような中で、進駐軍による４８時間強制退去命令が出され、訳もわからないまま移住を余儀なくされました。その土地に米軍によって空港が建設され、わが国に返還され度々の拡張を経て旧羽田空港が建設されてきました。現在、空港の沖合移転がまさに完了しようとしており、跡地の利用について様々な論議が展開されていると聞いております。

私ども住民といたしましては、跡地になろうとしている地域にかつて人々が住んでいたことと、その人々の犠牲があって空港ができた歴史は、何としても残していただきたいと考えております。そしてその場所が防災避難場所や区民の交流の場になり、記念碑が多くの人々の目にするものとなることを期待いたします。これらの私たちの願いが実現できますよう、地域の方々の署名を添えて陳情いたします。

大議請収１１第１５１号
平成１１年１２月　６日

渡　辺　辰　一様

大田区議会議長
永　井　敬　臣

請願・陳情の審査結果について（お知らせ）

平成１１年１１月１７日に提出されました下記請願は、羽田空港対策特別委員会委員会の審査を経て、平成１１年第四回定例会において下記のとおり決定いたしましたのでお知らせいたします。

記

１　件　　名
　　羽田空港跡地に関する陳情

２　審査結果
　　採　択

②①

月日のたつのは早いもので戦争という悪夢が
すぎ戦後四十三年・終戦戦前後の話をする人
も少なくなり、現在もう戦後は終ったと、言う人
も多数いるように、見受けられますが、私にとり
ましては、一生涯忘れようにも忘れる事のでき
ない一ページとして、今現在でも脳裏から片時
も離れるものではありません。これは、私一個人だ
けではなく戦争を体験し、衣食住にも事欠き
苦しい生活をして来た皆さんにも、相通ずる
ことでしょう。現在の東京国際空港、いわゆる
羽田空港内に居住していた人たちも同感の事と
思はれます。戦地・内地を問はず戦争の犠牲
になった人も、全国には多数いることは、言うまでも
ございません。現在の羽田空港内に、住宅があった
事すら知らない人がいると聞き、誠に残念でなりません
文才のない私が、断腸の思いで、この文章を書いて
いる事は、支援して頂く方々や、関係者の深い理解
を得るためでございます。
第二次大戦により、昭和二十年四月十五日、羽田地区
も空襲に遭ひ、家を焼失した者も多く、私もその一人で
ございました。家を焼かれ、その上、六人もの家族を亡くし
その時の悲惨さは、地獄そのもので、焼ボックリ」を集め
焼トタン」の上で自分の子供五人を焼いていた父親の顔・
母親も私が海軍に入団する直前の六月二十日やけど
が元で亡くなり、後ろ髪を引かれる思いで入団した事

は、今でも忘れるものではございません。
昭和二十年九月に発せられた、米軍進駐による、四十八時間以内立退命令も、羽田の歴史にとって、忘れる事のできない、出来事です。
私が学業を終え、就職したのが、昭和十七年四月でございましたが、その頃までは、鈴木町も空地など自然が多く、住み良い所で、思い出も沢山あり、前記のような悲惨な事があったとは故、今思えば鈴木町は懐かしく現在でも、鈴木町が、私の故郷だと思って居り、俺の故郷を返せと、声を大にして叫びたくなるような気持ちでございます。
これから先は、おぼろげながら記憶をたどり書かせていただきました。

立退時の職業ですが復員間もなくのことで正業には就いていなかったかと思います。家族で話し合った事、占領軍との接触等、そのような余裕はなく私の記憶には、残念ながら今は浮かんでまいりません
退去命令、引越、近所にいた人、記録文書等は昭和五十八年八月十五日、発行大田区史（資料編）の二四一頁、強制疎開、強制退去と、明記してある文章の通りかと思います。
やがて家を焼失した者は、引越の際のリヤカー等当然あるわけもなく、退去前の写真等もありませんでした。
引越先での生活は着のみ着のまま、若労その もので、私の青春時代は、なかった、ように思はれて、しかたがありません。各地を点々と歩き、四十数年前

④ ③

現在の地に落ち着きは、したものの、政府の政策の失敗か・政治の貧困なのか・最近になり、ロッキード問題に始まり、毎年、土地が急騰してゆく中、何も手を打たなかった政府・それにともない、地上屋・に悩まされている人も多く・私もその一人です。

文化国家だ・経済大国だ・等と言いながら・今度はリクルート宋公開株の譲渡問題にまで発展し・国民を馬鹿にするにも程があること、言ひたくもなるではありませんか・・科学の粋・技術の粋を結集した新幹線が走り青函トンネル・が開通し・瀬戸大橋が出来・便利になりました事は・結構な事だとは思ひますが・ますます自然が破壊され、これだけで文化国家・経済大国と云えるものでしょうか・・

私は疑問に思ひます。リクルート・の問題も根掘り葉掘り・ほじくり出すような、大手術をしなければ駄目だと思ひますが・皆さんはどの様に思っておられるでしょうか・・

蓋・という、イロハ・カルタ・がありましたが・現時代は、その様な事ではなく・臭い物は元から断たなければ駄目の一言につきるのではないでしょうか・・

現在の羽田空港の土地は、我々の故郷でもあり又我々の土地なのであります。」以上・

私共・羽田第三尋常小学校同期卒業生で
毎年「師友会」を行って居ります。「つ」で、その師
友会のメンバーの住所・氏名・電話番号
を明記したものが、私達の手元にありますので
お役に、たつ事であれば、いつでも、お見せして
も結構です」。

昭和六十三年十二月三十日

立退時の住所・蒲田区、羽田鈴木町三十一番地
現在の住所・大田区羽田三の三の三

渡辺辰一